

(様式 3 - 2)

【学力向上フロンティアハイスクール用様式】

都道府県名	京都府	番号	26
教育委員会担当者名	大島 浩樹		

学 校 名：京都府立山城高等学校
校 長 名：土山喜英
所 在 地：京都市北区大將軍坂田町 2 9
電 話 番 号：0 7 5 - 4 6 3 - 8 2 6 1
研 究 担 当 者：田内 浩

1 学校の概要

(1) 学校の特色

街中の伝統校で数多くの卒業生が近隣に在住しており、地域の学校に対する期待が大きい。また卒業生の中には、様々な分野で活躍中の方も多く、そのような先輩を講師として「山城高校 21 世紀塾」を開いている。

生徒はのびのびと学校生活をおくり、特に学校行事などでの盛り上がりには目を見張るものがある。

(2) 学校概要

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全制	普通科	356	9	358	9	350	9	1064	27
	計	356	9	358	9	350	9	1064	27
計		356	9	358	9	350	9	1064	27

(3) 学校の学習意欲・学力向上に関するこれまでの取組

今までに行ってきた本校での教育活動を総点検し、学校評価の試行を分析し個別に行っている活動を体系化していく基盤づくりを行っている。

(4) 教育課題

家庭学習の定着を図り、授業を大切にした学習を進めていくとともに、クラブ活動やクラスでの活動を通して、生徒一人ひとりが自らの進路を主体的に切り拓いて行く指導を推進する。そのためにすべての教育活動が有機的に関連し生徒の意欲的な活動を引き出すように次の項目を課題とする。

- 1) 質の高い授業（わかる授業、感動を与える授業、活気ある授業）の実践
- 2) 進路指導の充実（3年間を見通した学年別・月別指導計画の展開）
- 3) 「自学自習」のすすめ（見やすい年間授業計画表・シラバスの検討）
- 4) 個人カルテの作成（希望進路の達成にむけた各種データの分析）
- 5) 学校行事の位置づけ（目的・主題別の体系化）
- 6) 外部講師の活用（山城高校 21 世紀塾、京都人の活用事業、SPP 事業、高大連携等の推進）
- 7) 生徒自治活動の活性化

2 研究の概要

(1) 研究主題

家庭学習の定着を図り、授業を大切にした学習を進めていくとともに、クラブ活動やクラスでの活動を通して、生徒一人ひとりが自らの進路を主体的に切り拓いて行く指導を推進する。そのためにすべての教育活動が有機的に関連し生徒の意欲的な活動を引き出すように次の項目を課題とする。

- 1) 質の高い授業（わかる授業、感動を与える授業、活気ある授業）の実践
- 2) 進路指導の充実（3年間を見通した学年別・月別指導計画の展開）
- 3) 「自学自習」のすすめ（見やすい年間授業計画表・シラバスの検討）
- 4) 個人カルテの作成（希望進路の達成にむけた各種データの分析）
- 5) 学校行事の位置づけ（目的・主題別の体系化）
- 6) 外部講師の活用（山城高校 21 世紀塾、京都人の活用事業、SPP 事業、高大連携等の推進）
- 7) 生徒自治活動の活性化

(2) 研究のねらい

教職員個々の教育ベクトルの集約化と生徒の総合的な「人間力」の育成

教職員一人ひとりが現在より少しだけエネルギーを注ぎ込み、それを同じ方向に向けることが出来れば学校全体の力は大きくなる。またそれが生徒の「学力」向上につながる

(3) 研究組織

今年度は総務企画部でおこなったが、来年度からは「学力向上フロンティアハイスクール」プロジェクト会議を中心に事業を進めていく。

(4) 3年間の計画

平成15年度

現在までの本校での教育活動を見直し、どこに教育課題があるのかを検証し、個別に行われている教育活動を有機的に結びつけ体系化していくための基盤づくり

平成16年度

「学力向上フロンティアハイスクール」プロジェクト会議を中心に項目別教育課題を研究し、具体的な改善策とし実践していく体制づくりをする。

平成17年度

3年間のまとめの年度とし、学校評価制度もふまえ、成果を検証する。

3 本年度の取組

(1) 研究の実際

教職員への学力向上フロンティアハイスクール事業の計画案の提示と計画推進の具現化を行った。

生徒の「学力」を高めるために、「山城高校21世紀塾」と銘打ち、本校卒業生による講演などを行ってきた。(4回実施)生徒は先輩達の様々な生き方を知ること、自分の目標を探るとともに、日頃味わいにくい貴重な体験の場となった。

スタディーサポートを採用し、担任・進路指導推進を中心とした、生徒のワンランク上の進路実現を目指した指導を始めた。

他府県先進校の視察(広島県立廿日市高等学校・広島県立広島井口高等学校)を行い、学力向上のための実践についての調査・研究を行なった。

(2) 教材、資料等の作成状況

学校行事などで生徒の様子をデジタルカメラにおさめ、行事の直後にポスター掲示しタイムリーな情報を発信する事で生徒の行事に対する意欲を高めた。

4 研究に対する評価

(1) 研究の成果

「山城高校21世紀塾」は生徒にとって大変貴重な経験である。この経験を単発で終わらせずに、他の教

育活動とリンクさせることで一層効果が上がるはずである。

個人データの構築、集団データの解析を進めるのが大切であり、次年度の課題となった。

他校のシステムを知ることで今の本校に不足している点を確認できた。

(2) 問題点及び今後の課題

「山城高校21世紀塾」では、土曜の活用や定期テスト後の時間を使っての実施となることもあり、参加者を募るのが困難であることもあった。校舎改築に伴い学校設備も不十分な状態であるため、大人数を集めての事業が実施できなかったが、来年度からは参加者の募り方も検討しなければならない。

5 16年度以降の改善策

初年度は概要の把握に終わってしまった感がある。次年度以降は実践内容の絞り込みを行い具体的なプランに基づく活動を展開していきたい。

教育課程表、その他関連する資料(指導計画、評価規準等)があれば添付すること。